

■ 報告 ■

「地域×アート」をどう捉えるかという点については、月灘という古い合併前の村の名前に、アートを加えました。具体的な内容として、兄の絵画と私の写真を中心にして、コンサートや歴史・調査・報告・村歩きが中心となります。

今後の展望は、COSAには学芸員さんもいますので、住民と一緒にどうアートをつなげて行けるかが中心になります。会場は小才角小学校の廃校です。地域と世界のアートで交差する拠点ということで、いろいろな活動をしています。二階が絵画の展示会場、廊下沿いに写真、職員室でライブを行いました。

月灘という名前を付けていますが、だいたい大月町は、さきほど清水サーバさんが説明された隣になります。高知からだだと3時間半。なかなかお客さんは来ませんが、1か月で200人くらい入ってくれました。

今回はいろいろ古い写真から家族をテーマとしました。古い写真の一部を切り取って、兄の溝渕康史が描いた畳一枚分ほどの絵画を展示するというものです。いろいろ展示の仕方は学芸員さんにお任せしました。絵画と中村の安並、基本的には大月を中心とした幡多郡を中心とした作品が出てきます。私が撮影した写真作品も展示しました。私が若いとき、高知県展特選を受賞した作品です、なかなか撮れない一瞬を撮影した写真なので、去年に続き、今回も展示しました。コンサートは30人ほど入ってくれました。ワークショップは木造ドームを1時間で組みあげます。

小才角の入り口に、「お月さん桃色」の童歌を彫刻であらわしたと思われる、大野良一先生の作品があります。珊瑚漁師さんが小才角にいて、昭和の初めくらいに、この辺にずっと珊瑚を取りに行っているんですよ。「お月さん桃色」で江戸時代に見つけた珊瑚ですが、こういう海図を持って、これ貴重なので大月町史に入れるようにしているのですが、尖閣の周辺に珊瑚がごっそりあったそうなんです。ミッドウェーまで行っているんですよ、昭和59年くらいには。こちら辺まで調べるといのはなかなか難しいです。

■ 視察委員からの意見 ■

遠方ということや、ほぼおひとりですべてを回されていたのではないかと思います。やれること全部盛り込んでいる事業内容、ワークショップもされてますし、トーク、作品の陳列・展示、その見せ方も十分だったと思います。

特に私はトークに参加させていただきましたけれど、歴史的な内容も踏まえて珊瑚漁の話もありましたし、聞きごたえも十分ありました。地元の参加者の方だと思うのですが、次はやらないのかとポジティブなご意見もありました。想像するだけで凄い仕事量を、溝渕先生は遠方から行かれてますので大変だったのではないかと思います。(吉岡一洋委員)

■ 会場からの質問 ■

●廃校を利用した COSA という建物、地元では集落活動センターのようなものはなかったのですか、あればそこのコラボができないでしょうか。

ー歴史的な珊瑚漁師さんの話を2時間したのですが、その前に小才角の小学校、昭和、大正、明治にかけての古写真を観ていただいたら、やはり、お姉ちゃんが出ているとか、いろんな人が記憶の中に残っているものを掘り起こすことがものすごく大事な仕事だと分かりました。その辺りで交流はあって、珊瑚の話はもう少しつっこんだまとめ方をすると、町史や県史にも出せるのではないかと思います。